



町長日誌 No.132

町長日誌の第132号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

10月20日(月) AM7:40

昨日の日本晴れの天候からがらりと変わり、今朝はどんよりとした空模様です。それにしても、昨夜の強風はすごかったですね！ こんな時に、もし火災でも発生したらと考えるとなかなか寝付けず、真夜中に起きて興部市街の方角を思わず眺めてしまいました。野山の紅葉もかなり色あせてきましたが、昨夜の風でかなり落ち葉になりました。今朝は早く役場に出勤したのですが佃橋からアドナイさんに抜ける町道を走ると落ち葉が舞い上がり、どこかの車のコマーシャル映像の様でした。朝からなかなか良い気分になりました。

さて、例年浜を活気づかせている秋のイカ漁ですが、10月に入って沖合にはイカ釣り漁船が夜のオホーツク海を昼間のように明るく照らしています。この船は函館の方から来ていて、冷凍設備を完備した大型船です。地元では底網でイカを獲っているのですが、今年は沿岸に近づくのが少し遅いようで漁獲はさっぱりようです。農家の牧草やコーンの収穫作業は順調に終わり、今はたい肥散布や畑起こし等の作業の真最中です。その為、道路が汚れている事の多い時期になりました。農家の皆さんも出来る範囲で作業後の清掃をお願いしたいと思います。

9月20~21日(土・日)

札幌市のSTVラジオ本社前で3回目となった「風土&FOODフェスティバル」に参加しました。このイベントは毎週土曜日に放送しています「STVラジオ日高晤郎ショー」とご縁のある市や町そして高校がそれぞれの特産品を持ち寄り販売することと併せて、コラボレーションした食品なども作って提供する試みも行うなど、普段交流の少ない管外の町との連携を通して食文化や流通、さらには高校生にもこの取り組みを体験してもらう等オール北海道で考えようとするイベントで、今年から正式にSTVラジオの事業となりました。この時期は大通公園ではオータムフェスト、駅前でも東北復興イベントなど味覚の祭典が目白押しです。私は日高さんとの付き合いが一番長いと言うことで、このお祭りの幹事役になっていますので、開会のテープカットから二日間最後まで立ち会いました。興部町からは商工会青年部の皆さんが販売をしてくれました。コラボした食品であるワンコイン(500円)限定販売の「海鮮丼」は当麻町の米飯に類似町産サーモン、広尾町のイクラ、マグロが松前町そして興部のホタテを盛り合わせた丼ですが、あっという間に売り切れる盛況ぶりでした。普段、食品や商品が消費者に届くまでの過程は一つの町だけで成立することは皆無です。海鮮丼一つとってもこれだけの町が関わり合いを持っています。さらに醤油やワサビを生産するところ、器の製作、調理会社、冷蔵・冷凍輸送等など様々な手を経て私たちが手にしたり食べたりできるのです。この原料の生産から加工や輸送そして販売の全体を考えて、自分たちの町はどの部分が有利に取り組めるのかを考え、その価値向上やコスト削減などを「流通全体」で考えることが、これからの北海道に必要な事と思い取り組んでいます。

10月9日(木)

郵便局長を少し早く退職され、念願であった故里のお父様から譲り受けていた土地での花の栽培、なかでも興部の花であるハマナスの原種栽培に生涯をささげていた上出英二さんが永眠されました。平成11年から15年の歳月でしたが、街路に植える花の育苗をはじめラベンダーなどの香りの産業化、なかでも上出さんが一心に取り組んだのがハマナスの原種の花からとれる香りや、実のジャム・ピューレーさらには清涼飲料など多岐に亘る研究や事業化でした。国道238号線沿いで、興部市街の関所の様な小高い場所にある上出ファームですから、そこを美しい花で飾りお客様を出迎えたい！ 花で町おこしをしたい！ という夢を追い続けた上出さんでした。「花咲か爺さん」そんな呼び名がぴったりの方でした。心からの感謝とお礼を申し上げご冥福をお祈りします。

いよいよ雪の季節を迎えます。風邪をひき易い季節ですがストーブを使う季節でもあります。最近、薪ストーブも石油高騰を背景に増えていますが、煙突の過熱や洗濯物からの火災も多いと聞きます。お身体と共に『火の用心』にもお気を付け下さい。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。